



令和6年度 教育委員会 第8回定例会 議案

1 日 時 令和6年8月7日（水） 午後1時00分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

（1）開 会

（2）報告事項

（3）閉 会

静岡県教育委員会

第 8 回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
報告 事項 1	令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果	P1
< 非 > 報告 事項 2	令和 7 年度教員採用第 2 次選考試験の結果	非

(件名)

令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果報告

- 1 調査の目的
- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査実施日・実施学校数（政令指定都市、特別支援学校を含む）
- 実施日：令和 6 年 4 月 18 日（木）
- 実施学校数：小学校 480 校
- 中学校 261 校
- 3 令和 6 年度調査について
- 児童生徒質問調査及び学校質問調査は、オンライン実施
- 4 公表日程
- 7 月 29 日（月）テレビ・ラジオ・インターネット ※午後 5 時解禁
- 7 月 30 日（火）新聞 ※朝刊解禁
- 5 調査結果の概要（政令指定都市を含む）

(1) 学力に関する調査

ア 小学校（教科ごとの平均正答率） ※単位は%

区分	令和 6 年度		区分	令和 5 年度	
	静岡県	全 国		静岡県	全 国
国語	6 7 (6 7 . 2)	6 7 . 7	国語	6 7 (6 7 . 0)	6 7 . 2
算数	6 2 (6 1 . 6)	6 3 . 4	算数	6 2 (6 1 . 7)	6 2 . 5
総合			総合		

イ 中学校（教科ごとの平均正答率） ※単位は%

区分	令和 6 年度		区分	令和 5 年度	
	静岡県	全 国		静岡県	全 国
国語	5 9 (5 9 . 0)	5 8 . 1	国語	7 1 (7 0 . 6)	6 9 . 8
数学	5 5 (5 5 . 3)	5 2 . 5	数学	5 2 (5 2 . 3)	5 1 . 0
総合			総合		

(2) 学習状況に関する調査

ア 児童生徒質問調査

(7) 概要

- ・「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が高いことから、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりが推進されていることが分かる。一方で、全国比では下回っている質問項目が複数あることから、児童生徒が自分の学びを振り返ったり次の学びに生かしたりすることができる授業づくりの視点が必要である。
- ・学習におけるＩＣＴ活用に関する質問項目に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合が高いことから、ＩＣＴを活用した個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業づくりが推進されていることが分かる。

(イ) 主な結果 ※単位は％ ※[]内は中学校の質問。

質問項目	小学6年生			中学校3年生		
	静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
9 自分には、よいところがあると思いますか	84.9	-0.2	0.8	84.6	4.0	1.3
11 将来の夢や目標を持っていますか	83.2	0.9	0.8	66.9	0.4	0.6
13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.7	-0.6	±0.0	96.1	0.6	0.4
17 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.8	-1.1	2.0	79.1	-0.4	2.9
25 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.9	6.7	0.4	78.7	11.6	2.6
27 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか[週3回以上]	65.5	-2.5	6.0	72.0	2.9	7.6
28 5年生まで[1、2年生のとき]の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか	-	-	-	-	-	-
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	92.4	新規	0.3	95.3	新規	1.4
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	79.7	新規	0.5	79.1	新規	1.4
(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	86.9	新規	0.8	88.1	新規	1.9
30 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.9	2.9	±0.0	81.2	1.2	0.9
33 学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	86.4	新規	0.1	87.8	新規	1.7
34 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.3	3.0	-0.5	76.5	9.8	-1.4
35 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	82.9	新規	-0.8	78.1	新規	-0.9
37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.0	新規	0.4	93.3	新規	1.0
38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	79.3	5.2	-2.0	84.9	7.3	2.7

イ 学校質問調査

(ア) 概要

- ・地域連携に関する質問項目に対して肯定的に回答した学校の割合が高くなっていることから、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域と学校が連携・協働し、目指す資質・能力を共有していることが分かる。
- ・教育課程の編成や小中学校の連携等に関する質問項目に対して、肯定的に回答した学校の割合が全国と比較して高くなっていることから、各学校が学校運営の改善を図りながら小中学校が連携することによって、義務教育9か年を見通した「確かな学力の育成」を大切にしていることが分かる。

(イ) 主な結果 ※単位は% ※[]内は中学校の質問。

質問項目	小学校			中学校		
	静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
13 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	98.9	-0.1	1.9	99.3	0.4	2.8
14 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	98.1	0.3	0.8	94.0	3.0	2.2
25 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	87.1	-1.0	-1.1	84.4	-3.1	-4.0
27 調査対象学年の児童[生徒]は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	88.4	-1.1	1.2	86.4	2.4	-3.3
28 調査対象学年の児童[生徒]は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	95.2	新規	1.6	96.8	新規	0.7
29 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	59.3	新規	-1.9	54.2	新規	-1.1
34 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	87.1	-3.0	-0.3	88.8	2.1	2.2
35 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	86.3	-0.7	0.6	78.0	-1.3	-0.6
36 調査対象学年の児童[生徒]に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	97.1	2.0	5.2	96.4	-0.5	5.5
38 調査対象学年の児童[生徒]に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童[生徒]が意思決定できるような指導を行っていますか	93.6	-0.2	1.0	93.3	3.4	0.9
58[62] 調査対象学年の児童[生徒]が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか [週3回以上]	57.3	4.1	2.2	59.3	9.3	7.4
68[72] 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	73.5	-1.4	9.5	76.1	-3.2	7.1
70[74] コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	93.3	2.6	4.4	89.2	10.2	5.1

6 調査結果の速報分析

- ・学力に関する調査では、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学の調査が行われました。小学校国語は、全国の平均正答率を0.5ポイント、小学校算数は1.8ポイント下回りました。中学校国語は0.9ポイント、中学校数学は2.8ポイント全国の平均正答率を上回りました。中学校は調査開始以来、常に全国の平均正答率を上回る結果となっています。今後は、検証・分析を行い、更に改善策等について検討します。
- ・児童生徒質問調査の結果からは、「30 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「33 学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して肯定的に回答した児童生徒の割合が高いことから、これまでに引き続き「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりについて工夫・改善が図られていることを感じます。
- ・学校質問調査の結果からは、「14 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか」「70[74] コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか」に対して肯定的に回答した学校の割合は高くなっています。このことから、社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域と学校が連携・協働し、新しい時代に求められている資質・能力を育成していることが分かります。
- ・ICT機器の活用については、児童生徒質問調査の質問番号28において、「(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」に対して肯定的に回答した児童生徒の割合が高くなっています。また、学校質問調査においても「58[62] 調査対象学年の児童[生徒]が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」に対して週3回以上と回答した学校の割合が高くなっています。このことから、ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業づくりが推進されていると捉えることができます。
- ・学校質問調査において「13 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」「68[72] 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」に肯定的な回答をしている学校の割合が高いことから、学校運営の改善を図りながら小中学校が連携することによって、義務教育9か年を見通した「確かな学力の育成」を大切にしていることが分かります。

本調査結果から成果と課題を検証・分析し、「確かな学力の育成」に今後も努めています。

※詳細は「令和6年度全国学力・学習状況調査結果速報分析」(P5～12)を参照

7 今後の取組

- ・成果と課題、今後の対策等については、令和6年度第2回学力向上連絡協議会(令和6年9月17日)において、県及び市町で共有し、更なる改善へつなげる。
- ・学力と学習状況の関連についてクロス集計を用いるなどし、多角的に対応策を検討する。
- ・教育事務所及び総合教育センターの指導主事が、全国学力・学習状況調査分析会において共有した学力向上に関する方向性をもとに、学校への支援を継続する。

「令和6年度全国学力・学習状況調査結果速報分析」

教科に関する調査の結果

小学校

R 6 平均正答率(%)			
	静岡県	全国	差
国語	87.2	87.7	-0.5
算数	61.6	63.4	-1.8

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	63.6	64.4	-0.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	86.9	86.9	0.0
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.9	74.6	-0.7
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.2	59.8	0.4
		B 書くこと	2	69.1	68.4	0.7
		C 読むこと	3	68.8	70.7	-1.9
評価の観点	知識・技能		6	69.2	69.8	-0.6
	思考・判断・表現		8	65.7	66.0	-0.3
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		10	69.7	69.9	-0.2
	短答式		2	58.3	59.7	-1.4
	記述式		2	63.6	64.6	-1.0

【算数】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と計算		6	64.2	66.0	-1.8
	B 図形		4	64.1	66.3	-2.2
	C 測定		0			
	D 変化と関係		3	49.4	51.7	-2.3
	E データの活用		4	60.9	61.8	-0.9
評価の観点	知識・技能		9	70.6	72.8	-2.2
	思考・判断・表現		7	50.1	51.4	-1.3
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		5	72.9	75.3	-2.4
	短答式		7	60.5	62.0	-1.5
	記述式		4	49.4	51.0	-1.6

中学校

R 6 平均正答率(%)			
	静岡県	全国	差
国語	59.0	58.1	0.9
数学	55.3	52.5	2.8

【国語】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	58.3	59.2	-0.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	60.5	59.6	0.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	76.3	75.6	0.7
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.4	58.8	2.6
		B 書くこと	2	66.6	65.3	1.3
		C 読むこと	4	49.0	47.9	1.1
評価の観点	知識・技能		6	62.1	62.0	0.1
	思考・判断・表現		9	57.0	55.4	1.6
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		9	61.4	61.0	0.4
	短答式		3	62.7	61.8	0.9
	記述式		3	48.3	45.5	2.8

【数学】

分類		区分	対象 問題数	R 6 平均正答率(%)		
				静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と式		5	55.3	51.1	4.2
	B 図形		3	43.4	40.3	3.1
	C 関数		4	62.2	60.7	1.5
	D データの活用		4	57.4	55.5	1.9
評価の観点	知識・技能		11	65.3	63.1	2.2
	思考・判断・表現		5	33.3	29.3	4.0
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		5	60.3	58.5	1.8
	短答式		6	69.5	67.0	2.5
	記述式		5	33.3	29.3	4.0

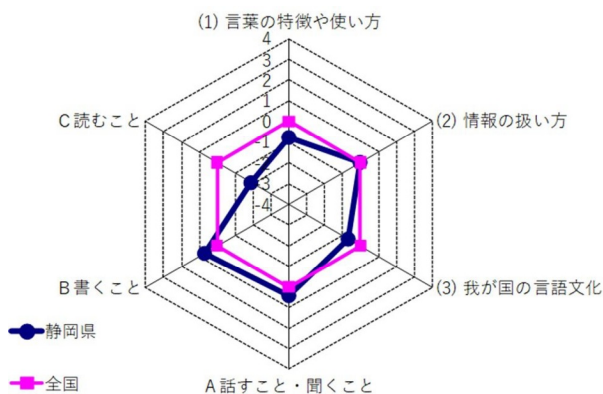
各教科の成果と課題

【国語】

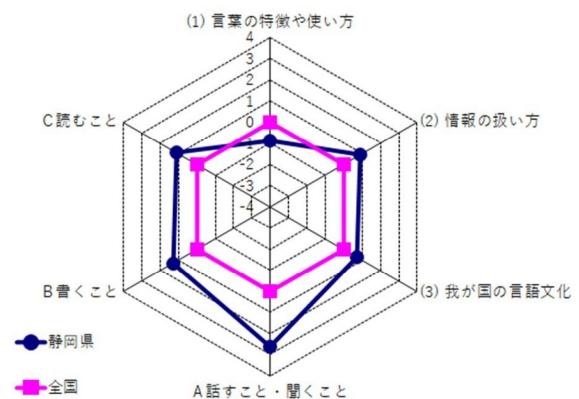
- 小学校では、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域においては、全国の平均正答率を上回った。
- 中学校では、学習指導要領の内容のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外のすべての区分で全国の平均正答率を上回った。
- 小学校では、「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。登場人物の行動や会話、様子などから、人物像や心情を具体的に想像させることを大切にしたい。
- 中学校では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、短歌における表現の技法を理解することに課題がある。また、「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】全 14 問



【中学校】全 15 問



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全国		
小学校	2 二 [B]	57.5	56.6	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
	2 三ア [(1)]	41.9	43.4	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
	3 二(1) [C]	66.2	66.9	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる
中学校	3 四 [B]	51.2	49.3	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる
	4 一 [(1)]	52.8	54.9	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校国語】

問題番号 3 二(1)

3

原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することになりました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ【物語】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

二 原さんは、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめるために、同じ物語を読んだ島さんと話し合うことにしました。次は、【話し合いの様子】です。これをよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

原さん	島さん	原さん	島さん	原さん	島さん
					
私は、オニグモじいさんがハエの女の子に、(①)を示しながら「わしみたいなクモが、生きるために食っているのはな」と言っ	なぜ、そこが心に残ったの。	この言葉にオニグモじいさんの迷いが表れていると思ったからなんだ。(②)を示しながら「大きな目をひらいて、いっしょうけんめいに」とあるようなハエの女の子のすなおな姿を見て、自分がハエの女の子を食べる存在である	ことを、どのように話すか迷っているのではないかな。	そうか。それで結局、オニグモじいさんは、(③)を示しながら「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」と言ったんだね。	そうだね。物語のいろいろなところを結び付けて考えると、心に残った理由がはっきりしてきたよ。島さんは、どこが心に残ったの。
					私は、(④)を示しながら「きれいな虹がかんで見えるだけ」という表現がいいなと思ったよ。もう一度物語を読んで、心に残ったところとその理由を考えてみよう。

(1) 原さんは、【物語】の①の他にも、オニグモじいさんがハエの女の子にどのように話すか迷っているところがあると考えました。オニグモじいさんがどのように話すか迷っていると考えられるところとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 【物語】の | ア |
| 2 | 【物語】の | イ |
| 3 | 【物語】の | ウ |
| 4 | 【物語】の | エ |

3

佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた【ノートの一部】と【物語の下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【ノートの一部】及び【物語の下書き】の1から4は、場面の番号を表します。）

【ノートの一部】

〈登場人物の設定〉

- ・「僕」……紙の辞書。語り手。
- ・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

〈もとにする体験〉

- ・小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
- ・使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しくて困った。
- ・最近はオンライン辞書ばかり使っている。
- ・紙の辞書を久しぶりに使った。

〈物語を通して伝えたいこと〉

紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉

- 1 出番のない寂しさ。
- 2 忘れられるかもしれない不安。
- 3 久しぶりの出番で感じた喜び。
- 4 次の出番への期待。

【物語の下書き】

1 あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になって

から、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたリ、書き込みをしリしてくれ

たのに。君との距離は、ずいぶん遠くなつてしまった。

2 インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語

さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利

のだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

3 そう考えていたとき、君は僕を手を取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだっ

たから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、

何度かページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。

調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終

わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言

葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみちたりた表情をしていた。僕は自分が認められたような気

がした。

4 あの日から数日が過ぎた。

四 佐藤さんは、【物語の下書き】の□の部分で、【ノートの一部】の4の場面の「僕」の心情を伝えて物語を終えようとして

います。あなたなら、どのように工夫して書きますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。

イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

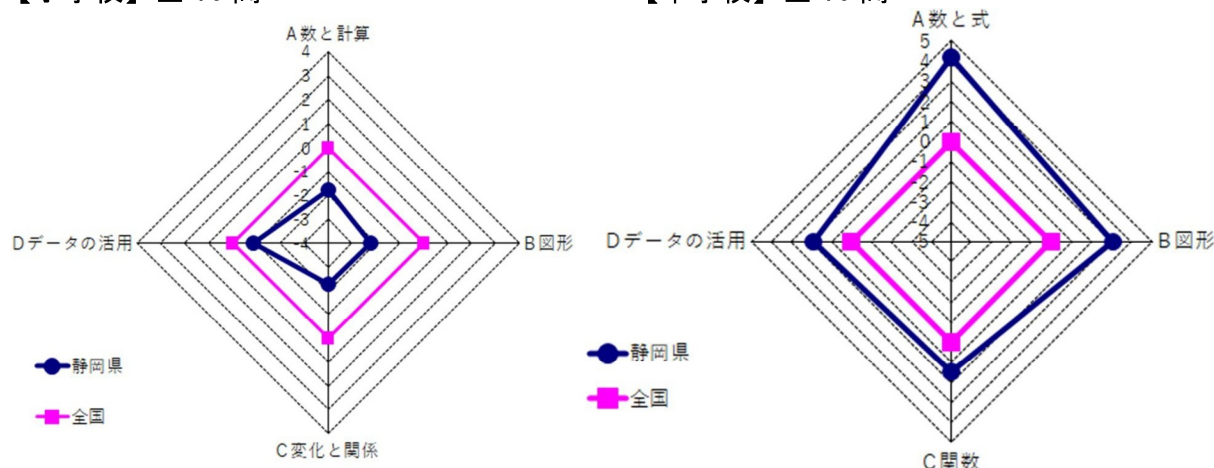
【算数・数学】

- 小学校算数では、全ての区分で全国の平均正答率を下回った。分析し対策を検討する必要がある。
- 中学校数学では、全ての区分で全国の平均正答率を上回っており、分析をもとに目指す資質・能力の育成を今後も継続的に行っていきたい。
- 小学校では、「B図形」の領域において、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。図形を構成する要素を見だし、活用できるように指導することが重要である。また、「D変化と関係」の領域では、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、見だしたことを表現できるように指導することが重要である。
- 中学校では、「Dデータの活用」の領域において、データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の根拠を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて説明することに課題がある。複数のデータ分布の傾向を比較するなどの活動を通して、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが重要である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】全 16 問

【中学校】全 16 問



◆課題となる問題

	問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		静岡県	全 国		
小学校	3 (3) [B]	36.6	36.5	直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる
	5 (3) [D]	43.0	44.0	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる
	5 (4) [A・D]	47.7	49.3	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる
中学校	7 (2) [D]	29.2	25.9	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

特に課題が見られた問題

【小学校算数】

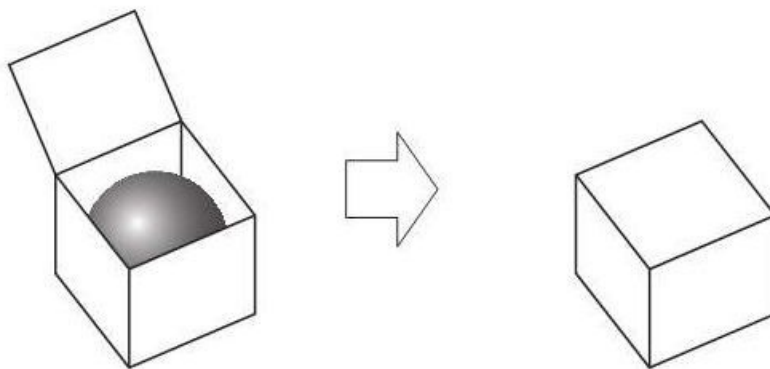
問題番号 3 (3)

3

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



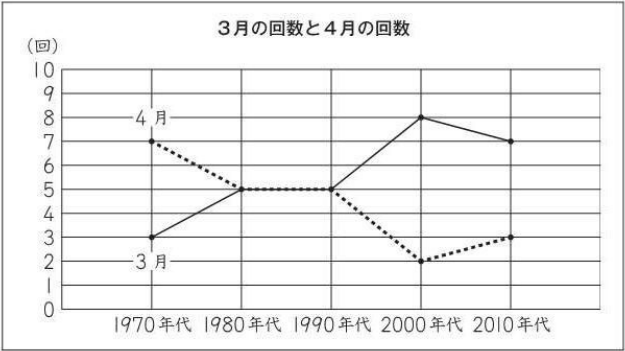
この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

問題番号 5 (3)、(4)

5 こうたさんは、桜の開花日について興味をもちました。桜の開花日とは、各地で基準となっている桜の木で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日のことです。

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のように折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

(4) こうたさんは、3月19日の卒業式の日までに、桜が開花してほしいと思っています。桜がいつ開花するか知りたいと思い、桜の開花予想日について調べたところ、下のような桜の開花予想日の求め方を見つけました。

桜の開花予想日の求め方

- ① 2月1日から、毎日の最高気温の数値をたしていく。
- ② 毎日の最高気温の数値をたした答えが、初めて600以上になったその日を桜の開花予想日とする。



今日は3月16日です。桜はまだ開花していません。

桜の開花予想日の求め方の①のように計算すると、3月15日までの最高気温の数値をたした答えは549でした。

3月16日からの最高気温の予報は、下の表のとおりです。

3月16日から3月19日までの最高気温の予報				
日にち	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日
最高気温(度)	21	20	15	14

こうたさんは、3月16日以降は予報どおりの最高気温になるとして、

桜の開花予想日の求め方を使って、桜の開花予想日を求めました。

桜の開花予想日について、次のようにまとめることができます。

最高気温の数値をたしていった答えが、初めて600以上になる式は、 $549 + 21$ だから、桜の開花予想日は3月16日です。

上の②に入る式を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の②に入る数を書きましょう。

- 1 $549 + 21$
- 2 $549 + 21 + 20$
- 3 $549 + 21 + 20 + 15$
- 4 $549 + 21 + 20 + 15 + 14$

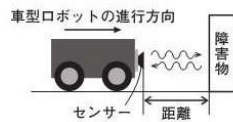
【中学校数学】

問題番号 7 (2)

- 7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。
そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることになりました。

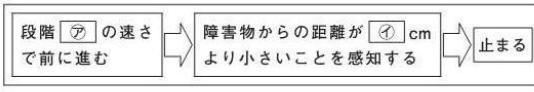
車型ロボットの説明

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。



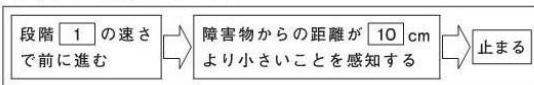
- プログラムの [7], [4] に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
○ [7] は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。
○ [4] は、距離として3 cm から 500 cm まで設定できる。

プログラム



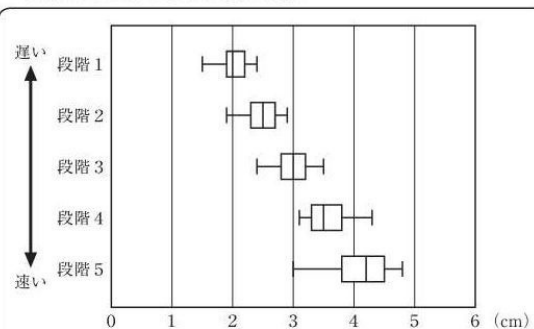
海斗さんは、まず、プログラムの [7] に1を、[4] に10を入れて、次のように設定しました。

海斗さんが設定したプログラム



- (2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

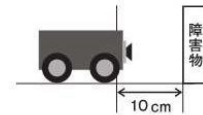
10 cm の位置から進んだ距離の分布



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階 1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階 2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階 3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階 4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階 5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

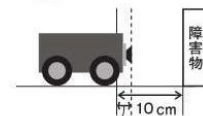
この設定で、海斗さんが車型ロボットを障害物に向けて走らせてみたところ、次の図1のように、設定した10 cm の位置よりも進んで止まりました。

図 1



そのようすを見て、海斗さんは、車型ロボットが10 cm の位置からどれくらい進んで止まるか気になりました。そこで、次の図2のように、10 cm の位置から進んだ距離を調べる実験を20回行い、その結果を下のように小さい順に並べました。

図 2



10 cm の位置から進んだ距離

10 cm の位置から進んだ距離について調べた結果

1.5	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4

(単位: cm)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

前ページの10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

令和7年度教員採用第2次選考試験の結果

(義務教育課)

1 合格者数等について

小・中学校教員						
校種教科	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
※小学校中段はしずおか未来創造校、 下段は小特共通、中学校下段は小中共通受験者(内数)						
小学校	604 <254> <36>	557 <245> <35>	423 <185> <25>	415 <183> <24>	193 <30> <13>	2.9
中学校	国語	59 <11>	50 <11>	40 <11>	38 <10>	2.3
	社会	137 <17>	127 <17>	30 <5>	30 <5>	11.5
	数学	84 <12>	78 <12>	48 <8>	47 <8>	4.3
	理科	59 <8>	54 <7>	32 <5>	30 <5>	3.6
	音楽	36 <6>	35 <5>	12 <4>	11 <4>	8.8
	美術	21 <3>	19 <3>	12 <2>	12 <2>	3.2
	保体	140 <10>	132 <9>	24 <4>	23 <4>	12.0
	技術	10 <1>	8 <1>	8 <1>	8 <1>	1.3
	家庭	5 <0>	4 <0>	4 <0>	4 <0>	1.0
	英語	64 <3>	56 <3>	50 <3>	47 <3>	2.9
	中計	615 <71>	563 <68>	260 <43>	250 <42>	4.9
小中合計	1,219	1,120	683	665	309	3.6

養護教員・栄養教員						
校種教科	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
養護教員	195	166	32	32	9	18.4
栄養教員	36	32	4	4	2	16.0

※倍率＝受験者数（1次）÷合格者数（2次）
※（受験者）には、一部受験者、昨年度補欠合格者も含む。
※中学校音楽（2次合格者数）には、小中共通で小学校に採用
予定者1人を含む。

3 令和7年度教員採用選考試験の結果発表等について

- (1) 第1次選考試験の結果発表
6月10日(月)、本人宛て郵送。正午に、県庁本館2階に合格者の受験番号を掲示し、教育委員会ホームページでも公開。
- (2) 第2次選考試験
6月29日(土)・30日(日)に県立静岡中央高等学校及び県立駿河総合高等学校において実施。
- (3) 第2次選考試験の結果発表
8月9日(金)発表方法は第1次選考試験と同じ。

2 特別な選考等について

(1) 教職経験者を対象とした選考

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
小学校	119	118	86	83	35	3.4
中学校	95	94	43	43	21	4.5
養護教員	51	50	8	8	2	25.0
栄養教員	0	0	0	－	－	－

(2) 国際貢献活動経験者を対象とした選考

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
小学校	0	0	0	－	－	－
中学校	0	0	0	－	－	－
養護教員	0	0	0	－	－	－
栄養教員	0	0	0	－	－	－

(3) 障害者を対象とした選考

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
小学校	1	1	1	1	0	0
中学校	2	2	1	1	1	2.0
養護教員	1	1	1	1	1	1.0
栄養教員	0	0	0	－	－	－

(4) 中学校社会人経験者を対象とした選考

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
中学校	1	0	0	－	－	－

(5)-1 大学院在籍者の特例受験者

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
小学校	4	4	4	4	1	4.0
中学校	8	8	6	6	4	2.0
養護教員	0	0	0	－	－	－
栄養教員	0	0	0	－	－	－

(5)-2 大学院進学予定者の特例受験者

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
小学校	6	6	5	5	3	2.0
中学校	13	13	9	9	4	3.3
養護教員	0	0	0	－	－	－
栄養教員	1	1	1	1	1	1.0

(6) 加点申請者

校種等	志願者数	受験者数(1次)	合格者数(1次)	受験者数(2次)	合格者数(2次)	倍率
小学校	188	182	167 (20)	162	83 (10)	2.2
中学校	57	56	40 (3)	38	22 (1)	2.5
養護教員	1	0	0 (0)	－	－	－
栄養教員	－	－	－	－	－	－

※()…加点による合格者数(内数)

令和7年度教員採用第2次選考試験（高等学校教員）の結果

(高校教育課)

1 合格者数等について

教科・科目	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
国 語	55	50	35	33	19	2.6
歴 史	61	52	18	18	7	7.4
地 理	15	12	8	8	4	3.0
公 民	24	19	7	7	3	6.3
数 学	69	64	37	37	14	4.6
物 理	17	17	8	8	5	3.4
化 学	28	26	12	11	3	8.7
生 物	29	25	14	14	8	3.1
地 学	4	4	3	3	1	4.0
保健体育	145	125	23	23	7	17.9
美 術	9	9	5	5	2	4.5
外国語	57	51	30	27	14	3.6
家 庭	15	14	9	8	5	2.8
農 業	12	10	5	4	2	5.0
機 械	2	2	2	2	1	2.0
電気・電子・通信	7	6	2	2	1	6.0
建 築	10	8	5	5	2	4.0
商 業	29	24	13	10	6	4.0
水産(機関)	0	-	-	-	-	-
水産(栽培)	3	2	2	2	1	2.0
情 報	14	10	3	3	1	10.0
福 祉	0	-	-	-	-	-
ネイティブ	4	1	1	1	1	1.0
合 計	609	531	242	231	107	5.0

※(倍率)＝受験者数(1次)÷合格者数(2次)

※受験者数には、一部受験者を含む。

※教職経験者を対象とした選考

ア1:県内外の国公立の本務教員(受検校種・教科の教諭、実務経験3年以上)
ア2・イ:県内外の高校以外の国公立学校本務教員(実務経験連続3年以上)又は県内の
公立学校臨時講師(過去5年間で36月以上勤務)
ウ・エ:県内外の国公立学校本務教員(実務経験2年以上)又は県内の公立学校臨時講師
(過去3年間で24月以上勤務)

2 特別な選考等について

(1)教職経験者を対象とした選考

種類	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
ア1	7	6	4	4	1	6.0
ア2・イ	24	21	11	11	5	4.2
ウ・エ	14	13	5	5	3	4.3
計	45	40	20	20	9	4.4

(2)障害者特別選考

	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
合計	3	1	0	-	-	-

(3)国際貢献活動経験者を対象とした選考

	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
合計	1	1	0	-	-	-

(4)博士号を取得した者を対象とした選考

科目	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
-	0	-	-	-	-	-

(5)民間企業等での勤務経験を有する者を対象とした選考

科目	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
電電通	1	1	0	-	-	-

(6)医療機関等での勤務経験を有する者を対象とした選考

科目	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
福祉	0	-	-	-	-	-

(7)商船等での勤務経験を有する者を対象とした選考

科目	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
水産	0	-	-	-	-	-

(8)大学院修士課程1年生の特例受験者

志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
14	13	8	8	5	2.6

(9)大学院進学予定者の特例受験者

志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
33	29	14	14	5	5.8

(10)加点申請者

志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
127	109	65	63	29	3.8

※加点申請
g:英語に関する資格等(免除又は5点)、h:複数教科の高等学校教諭
普通免許状取得(見込み)又は、特別支援学校普通免許状取得(見
込み)、p:3級海技士以上の免許かつ3年以上の実務経験、n:司書教諭

3 令和7年度教員採用選考試験の結果発表について

8月9日(金)本人宛郵送および同日正午に掲示・ホームページ公開。

(特別支援教育課)

特別支援学校教員							
校種教科		志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
小学部		73	66	63	62	43	1.5
中学部	国語	6	6	6	6	1	6.0
	社会	15	12	12	12	7	1.7
	数学	7	6	5	5	3	2.0
	理科	4	3	2	2	1	3.0
	音楽	8	7	7	7	5	1.4
	美術	1	1	1	1	0	
	保体	55	46	36	35	28	1.6
	技術	1	1	1	1	0	
	家庭	1	0	0	0	0	
	英語	7	6	4	3	2	3.0
	中計	105	88	74	72	47	1.9
	自立活動		4	4	4	4	4
合計		182	158	141	138	94	1.7

区分	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
ア	11	10	10	10	8	1.3
イ	31	30	26	26	11	2.7
ウ、エ	9	7	5	5	4	1.8
合計	51	47	41	41	23	2.0

校種等	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
特別支援	4	4	4	4	4	1.0

校種等	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
特別支援	1	1	0	0	0	

校種等	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
特別支援	2	2	2	2	0	

校種等	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
特別支援	0	0	0	0	0	

校種等	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
特別支援	1	1	1	1	1	1.0

校種等	志願者数	受験者数 (1次)	合格者数 (1次)	受験者数 (2次)	合格者数 (2次)	倍率
特別支援	51	45	41(0)	41(0)	27(0)	1.7

※ () … 加点による合格者数(内数)

※ しずおか未来創造枠（小学部対象） 志願者34人、受験者32人、1次合格者31人、2次合格者20人。

※ 倍率＝受験者数（1次）÷合格者数（2次）

※（受験者）には、一部受験者、昨年度補欠合格者も含む

※（合格者（2次））には、小学校・特別支援学校小学部共通教員6人を含まない